

# 能登半島地震に対するDWAT派遣活動について



# しがDWATとは？

「**D**isaster（災害）**W**elfare（福祉）**A**ssistance（支援）**T**eam（災害派遣福祉チーム）」の略。災害時における、長期避難者の生活機能の低下や要介護度の重度化など二次被害防止のため、一般避難所等で災害時要配慮者（高齢者や障害者、子ども等）に対する福祉的支援を行うことを目的として、福祉専門職等で構成するチームを指します。

＊現在45都道府県でDWATチームが設置されており、うち15府県が活動実績あり。滋賀県は、今回初の活動。



石川県羽咋郡志賀町



# 志賀町・富来地区の状況

- 水道・道路等のインフラは少しずつ回復。（水やお湯が場所によっては出ない。）
- 倒壊した家の対応が追いつかずそのままになっているのが散見。
- 罹災証明の発行が追いついておらず、順番が来るのは何ヶ月とも。
- 徐々に仮設住宅が建設されているがまだまだ。

# 志賀町・富来の状況



3/20/2024

# 1.5次避難所の現状

・避難者：159名（2/15付）

うち要配慮者：23名

\* 多数避難されていますが、その中で、約9割の方が自宅の片付けや仕事に通っている。全員が揃うのは夜間～早朝にかけて。

# 写真



3/20/2024



# 写真



# 主な活動

- ・ 愛知県DCATと共に活動。
- ・ 福祉相談窓口の運営。
- ・ 館内をラウンド。  
(日々の健康チェック、ニーズ把握)
- ・ 周辺自主避難所へのラウンド (5箇所)
- ・ 他の専門職や行政との連携。



# 写真（近隣の避難所。公民館等）



# ニーズへの対応

## ・食事、栄養

野菜不足による便秘。

環境変化による食欲低下など。

⇒役場の栄養士、保健師と相談

や運動習慣に関する情報提供。

⇒食事の時間を規則正しくしてもらう。

# ニーズへの対応

## • 身体的・精神的不調

- 夜間不眠・中途覚醒してしまう。
- 自宅の清掃であちこちが痛んでいる。
- 元々受けていたサービスが受けられない。

⇒巡回中のJMAT、DMATと共同して町立病院、開業医を勧めたり薬処方。

⇒優先すべき課題なのかのアセスメント

# 課題と対応

- 平日はそれぞれ仕事や自宅の清掃で外出されている方が多く避難者の方と会ってアセスメントする事ができない。  
⇒周辺自主避難所含めラウンド時間をずらし、夕方以降に訪問できる様調整。
- 新規で確認された「要配慮者」への支援を途切れないようにする為に多職種チーム、次期チームへの共有を徹底。

# 専門職としてできる支援（意識した事）

- 避難者の方へのアセスメント

⇒日々業務で行っているアセスメントをいかにして短期間で行うか。今後考えられる課題も含めて次期チーム、多職種と連携。

- 「ニーズ」を「生活」につなげる

⇒多職種との連携、調整が出来ることが我々の持ち味の一つ。4日間の中で決できなかった課題をいかにして月のチーム、多職種に繋げていくか考え実践した。

# これからの課題（信楽でどうしていくか？） No1

- 避難生活者のニーズは、月日を重ねる事によって変わっていく。  
被災による避難→被災による嘆き、ショック、心の痛み→  
徐々に自分の現在の状況を理解→先の生活をどうするかの悩み  
→避難所での生活に慣れると同時に共同生活の苦痛→自分で今

## 出来る事の模索



# これからの課題（信楽でどうしていくか？） No2

- 自分でできる事の模索

⇒自分から主体的にしたい事、できる事が出て来た時に、その事を専門職や地域の方がどの様に支えていくのか？

⇒少しでも早い避難者の自立を支えるためには、専門職・行政・地域住民と顔の見える関係、日頃のつながりの大切さが大きい力となる。

日頃のコミュニケーションがとても大切である。

# 写真（一緒に活動した仲間）



3/20/2024

**ご清聴ありがとうございました。**